

トルコの核果類事情(サクランボ)

[米国農務省GAINレポート 2024年8月26日](#)

これは米国農務省海外農業局アンカラ事務所(トルコ)が作成した「核果類年次報告書」のサクランボ関係部分(一部省略)を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

2024/25販売年度(年度)のトルコのサクランボ生産量は、過去最高であった昨年よりは少ないものの、それでも記録上3番目に多い年になるものと予測される。生産量が減少するにもかかわらず、生産者が国内市場よりも収益性が高い海外での販売を優先するため、サクランボの輸出量はこれまでの最高に達すると予測される。モモとネクタリンの生産量及び輸出量は、大規模な生産者が収益性の高い輸出を引き続き推進するため、記録的な水準に達する見込みである。この記録的な年の中で、国内市場にしか販売できない一部の小規模な核果類生産者は、投入コスト(人件費、燃料代、電気代等)が果実の出荷価格よりも速いペースで増大しているため、収支を合わせるのに苦労している。

<サクランボ(甘果オウトウ及び酸果オウトウ)>

栽培面積

2024/25年度のサクランボの栽培面積は、甘果オウトウと酸果オウトウを合わせて前年よりわずかに多い9万9,300ヘクタールと予測される。この面積は、8万ヘクタールの甘果オウトウと1万9,300ヘクタールの酸果オウトウで構成される。過去10年間、サクランボの総栽培面積は約10万ヘクタールで推移している。

この10年間、栽培面積はほぼ一定であったが、生産者が事業を近代化するにつれて、甘果オウトウの結果樹本数は増加した(密植化)。トルコの統計によると、甘果オウトウの結果樹本数は2019年の2,100万本から、2024年には約2,700万本に増加したが、酸果オウトウの結果樹本数は概ね横ばいである。

トルコには100品種以上の甘果オウトウがある。最も人気のある品種は、国内では0900ジラート(0900 Ziraat)として知られているナポレオンである。これは果粒が大きく、ジューシーでハート型のサクランボで、他の品種よりも貯蔵性が高いため、国内外の長距離輸送に最適である。過去10年間で、トルコの科学者たちは、より多収性で高品質のナポレオン品種を開発した。生産者達は、古いナポレオン品種を徐々に新しい改良型のナポレオン品種に置き換えてきた。ナポレオンに加えて、生産者は、スイートハート、セレステ、アーリーローリー、コルディア、レジーナ、サム、サンバースト等の他の多収性甘果オウトウ品種の試験も始めている。

生産

2024/25年度のサクランボの総生産量は、昨年の記録的な生産量から約5%の減少となる90万トンと予測される。これは、今シーズンの生育条件が昨年ほど理想的ではなかったためである。生産量は減少すると予測されるものの、それでも史上3番目に多いと予測される。予想総生産量は、甘果オウトウ70万トンと酸果オウトウ20万トンから成る。当事務所の予測は、現地調査やサクランボ生産者らとの対話に基づいており、降雨のタイミングと量は適切であり、春には霜害がなかったことが明らかになった。

トルコ統計庁(TurkStat)は、2024/25年度のサクランボの総生産量を98万8千トン、そのうち77万1千トンが甘果オウトウで残りの21万7千トンが酸果オウトウであると予測している。トルコ統計庁の予測が当事務所の数値と異なる理由の1つは、前者が収穫が始まったばかりの5月上旬に予測を行ったことである。

サクランボの生産は主にトルコの国土の西側に集中している。沿岸部のイズミル県と内陸のアフィオンカラヒサル県は、それぞれ甘果オウトウ及び酸果オウトウの主要な生産県である(図1、2(省略))。トルコのサクランボの出荷時期は5月に始まり、8月上旬まで続く。サクランボの正確な出荷時期は地域や天候条件によって異なるが、一般的にサクランボの収穫の最盛期は6月に始まる。サクランボの収穫は、5月下旬にエーゲ海沿岸のイズミル県で始まり、その後6月と7月にはアフィオンカラヒサル、コンヤ両県等の内陸部に移動する。

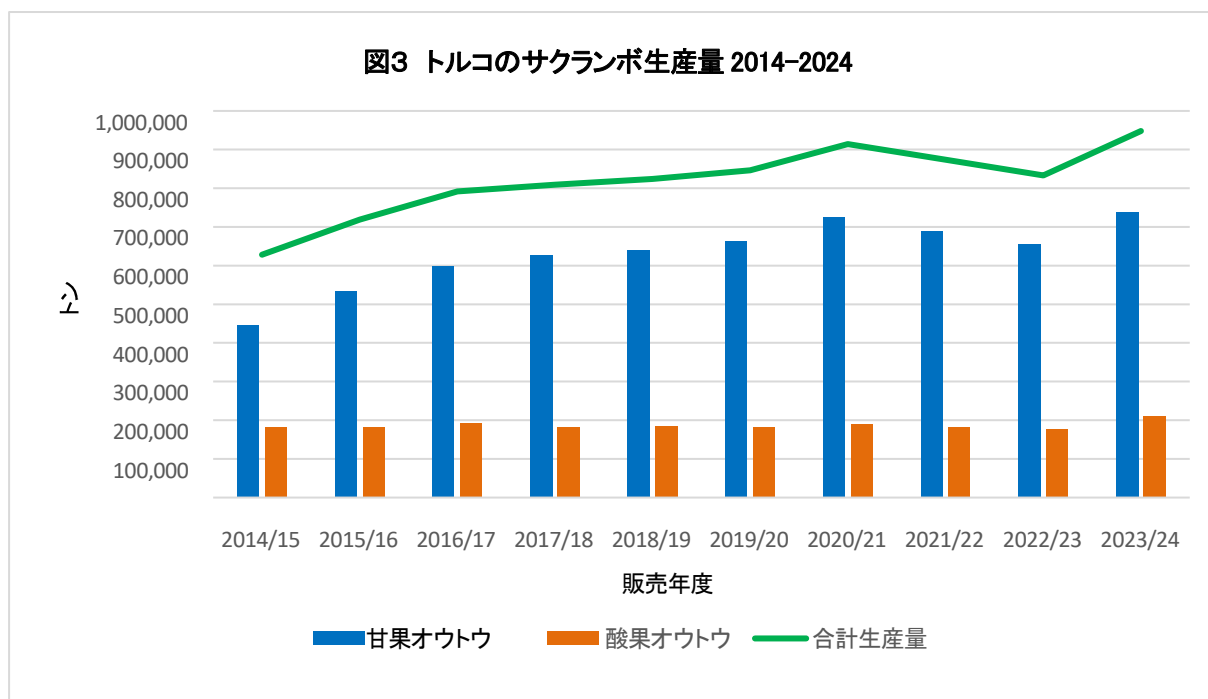
図1 トルコの主要甘果アウトウ産地



出典: TurkStat, 2024

労働力、エネルギー、肥料等の投入コストは、トルコの継続的なインフレ状態により上昇し続けている。労働力は投入コスト全体の中で最大のシェアを占めており、1日当たりおよそ1千TL(トルコリラ 1TL=29.71ドル)の費用がかかる。このようなコスト高の中で、一部の生産者、特に小規模な事業者は、収益性を維持するのに苦労している。

1kgの甘果アウトウを生産するのに57TLの費用がかかったが、50TL/kgでしか販売することができず、損失を出したと報告している生産者もいる。これらの損失の結果として、一部の小規模な生産者は、より収益性の高い農産物の栽培に切り替えることを検討している。それとは対照的に、輸出ができる大規模生産者は、生産コストを超える価格でサクランボを販売して利益を得ることができるため、裕福であると報告されている。



出典: TurkStat, 2024

近年の旺盛な輸出需要がサクランボ生産量の増加の原動力となっており、輸出量は過去10年間で65%増加した(図4)。この増加は主に甘果オウトウの生産拡大によるもので、そのかなりの部分が輸出されている。一方、主にトルコ国内で果汁飲料やジャムの製造に使用される酸果オウトウの生産量は安定している。

トルコは伝統的なサクランボ生産から、最新の多収性品種を用い最新の技術を駆使する近代的な密植果樹園の設置等、現代的なサクランボ生産へとゆっくりと移行している。しかし、このような絶え間ない進歩にもかかわらず、サクランボ生産の大部分は家族経営の農場で伝統的な方法で行われている。

消費

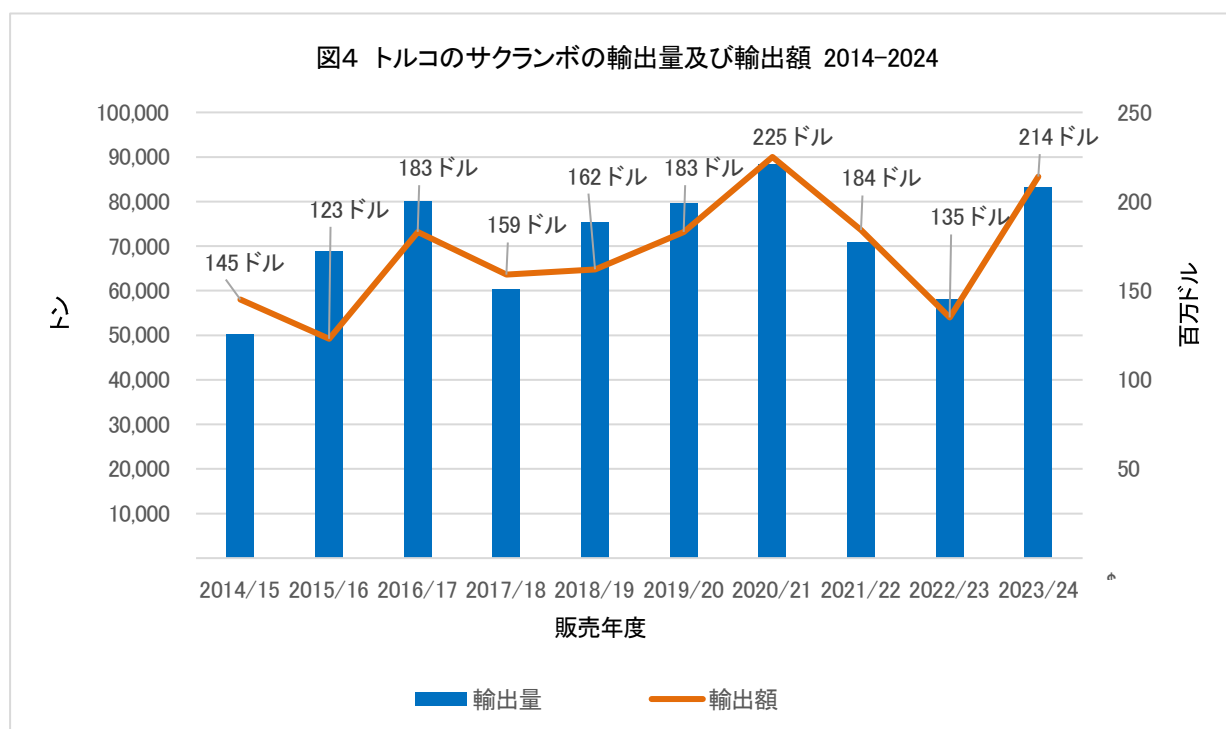
2024/25年度の国内のサクランボ消費量は81万トンと予測され、前年に比べて約5万5千トンの減少となる。この減少は、今シーズン予想される生産量の減少と記録的な輸出量に一部起因している。2023/24年度の推定消費量は、同年の生産量の修正を考慮して約86万5千トンに上方修正する。

トルコでは100品種以上のサクランボが栽培され、消費されている。甘果オウトウの大部分は生鮮で消費されるが、酸果オウトウの生産量の90%は缶詰、マーマレード、冷凍フルーツ及び果汁飲料の製造に使用される。

2024/25年度の甘果オウトウの農場出荷価格は50TL(1.49ドル)/kg、小売価格は80~150TL(2.38~4.46ドル)/kgの範囲であった。酸果オウトウの小売価格は、90~150TL(2.59~4.46ドル)/kgであった。

貿易

生産量の縮小が予想されるものの、EU市場をはじめとする輸出需要が依然として堅調で、国内での販売よりも収益性が高いため、当事務所は2024/25年度の生鮮サクランボの輸出量は史上最高となる9万トンと予測する。2023/24年度のトルコ産サクランボの輸出先上位3カ国は、ドイツ、ロシア、イラクであった(表1)。



出典: Trade Data Monitor, LLC, 2024

輸出先国	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24
ドイツ	27,180	25,894	24,558	15,343	26,673
ロシア	25,412	29,788	23,116	25,169	22,638
イラク	10,280	7,243	7,128	7,813	10,131
オーストリア	1,961	3,877	2,194	407	3,583
ブルガリア	0	216	536	246	3,103
イタリア	1,165	2,754	1,154	20	2,443
オランダ	2,546	2,142	2,241	1,117	2,028
ポーランド	59	449	912	220	1,638
ルーマニア	18	127	31	86	1,247
英国	685	1,373	833	122	1,133
その他	11,234	13,649	8,246	7,372	8,835
世界	80,541	87,512	70,949	57,915	83,452

出典: Trade Data Monitor, LLC 2024

マーケティング

エーゲ海地方輸出業者協会によると、トルコの目標は、[近い将来に3億ドル相当の甘果オウトウを輸出すること](#)である。2023年の輸出総額は約2億1,400万ドルであった。

近年、トルコ産甘果オウトウの国内及び国際的な販売量が大幅に増加している。これらの拡大した販売活動を支えるため、トルコの企業は、より新鮮なサクランボとサクランボ製品を消費者の手に届けるための冷蔵倉庫及び梱包事業に新たな投資を行った。同時に、生産者は輸出市場が求める甘果オウトウの品種を生産しており、多くのトルコ企業がサクランボの輸出に以前よりも精通してきている。

核果類に関する政策

過去10年間で、核果類を生産する大規模な生産者は、安定した需要と政府の継続的な支援により、果樹園を徐々に近代化し、拡大してきた。農林省(MinAF)は、オンラインシステムに登録した農家や生産者に支援金を提供している。支援金は、燃料代と肥料代の一部を賄うのに役立ち、また、国内で栽培される果実の品質を向上させるために生産者が政府認定の苗木を購入することを後押ししている。

農林省は2023年に、人々が自分たちの村に戻り、新しい果樹園に植栽することを奨励するための補助事業を発表した。この事業では、資格要件を満たす生産者は、3万TL(1,667ドル)の補助金に加えて10万TL(5,556ドル)の現金を支給される。詳細については[農林省のウェブサイト](#)を参照願いたい。しかし、このような支援にもかかわらず、一部の生産者達は、収支を合わせるにはこれでは不十分だと不満を漏らしている。

トルコのサクランボの生産需給統計

甘果オウトウ・酸果オウトウ(生鮮) 販売年度の始まり トルコ	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年4月		2023年4月		2024年4月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	99,200	99,826	102,000	99,202	0	99,300
収穫面積(ヘクタール)	0	0	0	0	0	0
結果樹本数(千本)	27,800	27,711	28,200	27,431	0	28,000
未結果樹本数(千本)	6,800	6,800	6,700	6,623	0	6,600
果樹総本数(千本)	34,600	34,511	34,900	34,054	0	34,600
商業的生産量(トン)	832,811	832,811	900,000	948,082	0	900,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	832,811	832,811	900,000	948,082	0	900,000
輸入量(トン)	0	0	20	0	0	0
総供給量(トン)	832,811	832,811	900,020	948,082	0	900,000
国内消費量(トン)	774,911	774,814	825,020	864,804	0	810,000
輸出量(トン)	57,900	57,997	75,000	83,278	0	90,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	832,811	832,811	900,020	948,082	0	900,000

公式データには [PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。